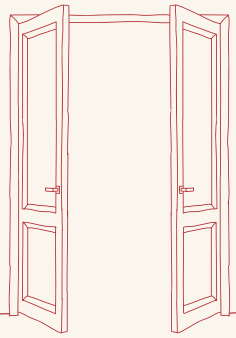


私のネクストステージ

—退職者への質問状—

Vol.26



60歳からが人生劇場の本番です！



じんせいでいきらくだろ

人星亭喜楽駄朗 こと **米谷 裕夫さん (68歳)**

2009年3月定年退職

元秋田県職員



【よねや・ひろお】1948年生まれ、秋田県男鹿市出身。1973年秋田県に入庁し、福祉事務所、児童相談所等福祉畑を歩む。57歳で日本笑い学会に入会し、笑いを猛烈に研究。退職後は「人星亭喜楽駄朗」として様々なお笑い活動を展開。これまで91市区町村で約800回講演したほか、首都圏でも人星亭喜楽駄朗ライブショーを主催している。「日本笑い学会大会」では10年連続で研究論文を発表。2010年からは同郷の落語家・三遊亭たん丈を応援するため「なまはげ寄席三遊亭たん丈・人星亭喜楽駄朗二人会」も開催。人星亭喜楽駄朗オフィシャルブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/xmwpn686>

— 米谷さんは、定年後のライフプランをいつ頃から考えられていたのですか。

55歳頃からです。第2の職場に就職するのではなくて自由人、一市民として自分のやりたいことをしたいと思っていました。

— 定年後は人生漫談師としてご活躍されていますが、そのきっかけとなった「日本笑い学会」との出会いについて教えてください。

2006年8月、57歳の時、地元紙で見つけた「笑学校イン秋田」というイベントに参加したことが最初です。どんなことをするのか興味があつて行ってみたら、挨拶に立った日本笑い学会の東北支部長が「大笑い」をしてみせるんです。面白いことをする人だなあと思っていたら、出席者にも「大笑いをしなさい」と言うのです。皆、恥ずかしいから小さな声でやっていたら「もつと大きな声で、全身で大笑いするんです！」と怒られました。私は「もう逃げられない」と覚悟を決め、やけっぱちでそれまでの人生で最大の全身大笑いを3回しました。すると、とてもいい気分になったんです。それは、これまで心の中で抑圧されていたいろいろなモノが一挙に放出されたような感じでした。

— その後、入会されたんですね。

はい。私は秋田県職員として真面目一筋、ダジャレも言わず黙々と自分の仕事と役割をこなしてきました。そういう私にないモノがこの学会にはあると思う、イベント終了後直ちに入会手続きをしました。

— 入会後の変化は？

他人を笑わせることがとても楽しいと実感するようになりました。それに加え、会員となったからには地域の方々に笑いを提供しなければと思い、猛烈に「笑い」を研究し始めました。図書館へ通い、笑いに関する本をかき集めては、乱読しました。年数回は「笑い学研修」と称して東京の浅草芸芸ホールや新宿末廣亭、鈴木演芸場、池袋演芸場でプロの芸人たちの技を勉強しました。研究していくうちに、人はどういう時に笑うのかというパターンが見えてきました。

— 人生漫談師「人星亭喜楽駄朗」として、どのような活動をされているのですか。

はじめは県民に「日本笑い学会」の存在をアピールしたいと思って、まずは病院のホールで患者さんや市民たちにボランティアで笑いを提供する「笑学校 in ○○病院」を始めました。県内の会員に呼びかけると全員が賛同してくれて、3カ月に1回くらいの頻度で県内各地の総合病院で開催しました。現在はプロとして全国各地で年間約70回程度、講演・漫談をしています。演題は「笑いには幸せへのかけ橋」「笑う力は生きる力」「笑いの基本定石ベスト5」等です。

「人星亭喜楽駄朗ライブショー」を新宿、渋谷、横浜など首都圏で開催するほか、地域貢献活動の一環として私の持っているノウハウを市民の皆さんに提供する無料のワークショップも数多く主催しています。

医師会、PTA研修会、地域婦人団体大会、JA女性部研修会、病院祭、自治会研修会等様々なところで講演



「日本笑い学会」東北支部の秋田県人会長としての活動も



人星亭喜楽駄朗の人生訓

- ♪ 命を大切に人生を楽しもう。
- ♪ 人生とは思い出をつくる場所である。
- ♪ 人生8がけで生きる。70歳×0.8=56歳。70歳なら56歳と思って人生を楽しもう。
- ♪ 「今さら」ではなく「今から」。
- ♪ 人生のやり直しはできない。でも忘れ物を取りに行くことはできる。
- ♪ そのうち使うだろう。そのうちは来ない。
- ♪ 死ぬこと以外はかすり傷。生きてるだけで丸儲け。
- ♪ 一笑一若、一怒一老。1回笑うと1歳若返る。1回怒ると1歳老ける。
- ♪ 腹が立ったらごろ寝しよう。立った腹が横になる。
- ♪ 笑いは内臓のジョギング。
- ♪ 嫌なことは、笑いながらやると楽しいし、はかどる。
- ♪ 笑顔のつくりかたは簡単。割り箸を噛む。
- ♪ お金は人生を楽しむためにある。お金と肥料は、ばらまかないと役に立たない。
- ♪ 人生の終わりに残るものは、集めたものではなく与えたものである。
- ♪ プラス思考。もう70歳、まだ70歳。無いものを数えずに、有るものを数えて生きていく。
- ♪ 幸せの「はひふへほ」。
半分でいいの 人並みでいいの
普通でいいの 平凡でいいの
程々でいいの
- ♪ 人間の幸せ度 = 一生涯に笑った回数。
だから人生多く笑った人の勝ち。



個性的な面々が並ぶ「人星亭一門会」の皆さん

—— 大変なところは、どんなところですか。——
秋田県内では全市町村で何度も講演しているため「人星亭さんの講演は今日で3回目よ」などと言う熟年女性が増えてきました。ですから、常に新しいネタを考えなければというプロの辛さを味わっています。ですが、私のネタで多くの人々が大笑してくれているところにやりがいを感じます。地域の方々に笑い、癒し、喜び、安らぎを与えることが、私のこの世におけるミッションだと思っています。

—— 今後やりたいことはありますか。——
全国に32名の弟子がいるのですが、2年前、ステージ経験が全くない弟子たちの背中を押してお笑い芸人に育て「人星亭一門会」を立ち上げました。弟子たちに発表の場を与えたいと思い、地域活性化を兼ねて「人星亭一門演芸発表大会」を県内各地で

開催しています。弟子たちには「花の都・東京、笑いの本場・大阪で秋田弁丸出しのお笑い演芸をやるぞ」と言い続けています。いつの日か実現させたいです。

—— 最後に、現役世代の方にメッセージをお願いします。——
私は60歳までは妻子を養うため、家族の幸せのため一生懸命働きました。その分、60歳以降は、自分自身の人生を光り輝かせるためにお金と時間とエネルギーを使いたいと思っています。世間では60歳以降の人生を第二の人生などと言いますが、とんでもないです。私に言わせれば59歳までは人生のリハーサル、60歳以降の人生こそが人生劇場の本番スタートです。自分が主役の人生劇場、晴れ舞台を心行くまで楽しんでいる人星亭喜楽駄朗です。

—— これからの人生劇場も応援しています。——